

---

# Dream music

車エビ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

D r e a m m u s i c

### 【Nコード】

N 1 8 2 6 N

### 【作者名】

車エビ

### 【あらすじ】

双坂 陸斗と中宮 一樹とその仲間達が送るストーリー

あなたはなにを守るのですか？

そのものには、守るだけの価値がありますか？

そのものを守るためにあなたは自分を犠牲にできますか？

たとえ…その身が減びようと…

注意！

作者はいろいろ忙しいので、不定期更新です！  
読者の皆様、すみません

## 出会は始まり(前書き)

お久しぶりです、車エビです！  
初めての方は、始めまして。

D r e a m m u s i c r i n i y u e a r l s h i t e z a i k i m a s h i t a !  
ではごっごー！

## 出会は始まり

### 第一話

今日もいつもと同じ1日になりそうだ。

オレは、双坂<sup>ふたさか</sup> 陸斗<sup>りくと</sup>いつも通りに朝の支度をし、買い物のため近所のスーパーに出かけた……

しかし、今日はいつもと違いついてないと思うしかなかった。

陸「いつもの道でいけばそんな時間はかからないのに……なんで買い出しの日に工事なんだよ、おかげで裏道を使って遠回りを……」

と一人でぶつぶつ言いながら裏道の角を曲がろうとすると、

全力で走って来るフードをかぶった人物が

「！？」

そしてオレは、ぎりぎりではけた。

しかし突っ込んできた人物は、勢いを殺しきれず、

「あう！」

そんな声を上げて壁に激突した、かなりいたそうだ。

その人物は頭をこちらに下げるとさっさと走って行った、よほど急いでいたらしい…ん？なんか反転して帰ってきたぞ…

「あの…これ…よろしく頼みます！」

一枚の紙を残し、フードの女の子は帰って行った。

（そのときの感想）

（声、可愛かったな）

む！いかんいかん！なにを考えているんだ！

気を取り直して、俺は手紙を見た。

内容は、

『ただいま、バンド仲間募集中！やりたい人は地図の花咲ビル2階のスタジオまで来てください！』

と書かれていた、最近ソロギターも飽きてきたから買い物を終えたら行ってみるか、と考えを巡らせながらスーパーへ向かった。

彼がスーパーで買い物をしている間に、先ほどの女の子が、7回ほど転んだのは秘密だ。

「い…痛いです…」

## 出会は始まり（後書き）

次回は、まだ整理中なので、いつになるかわかりませんが、しかしこんな作者を見捨てないでください！お願いします！

## 裏道には注意

買い物が終わり、今は自分の家にいる。  
庭には、桜の木があり、少し前まではかなり綺麗だったが、今は葉桜になっている。

陸「さて、そろそろ行くかな」

誰かに言う訳でもなく…

強いて言うならその桜の木に言って

俺は玄関に向かった。

くしばらくしてく

……空が綺麗だな

チンピラA（痩せている）「おいてめえ！聞いてんのか!？」

現実逃避終了

スタジオに向かう途中、近道に裏道を使ったら…

チンピラ3人に絡まれ、今に至る。

近いから歩きで行ったのがまずかった…

ここは、丁寧に言った方がいいかな…

陸「あゝ、どいてくれませんか？でないとお殴り致しますよ？」

チンピラB（筋肉ゴリラ）「ああ！ふざけんじゃねえ！！！」

チンピラC<sup>チビ</sup>「アニキやっちまえ！」

チンピラBが右喧嘩ストレートを放つ

そして俺はそれを受けた

陸「遅い」

チンピラB「！！！」

右手で

そして右手に力を込めて

チンピラBを『振り回した』

チンピラB「ぎゃあああ！」

陸「あ、手が滑った…」

チンピラBコンクリの壁にストライク  
死んではない、たぶん…

チンピラA「ば、化け物か!？」

チンピラC「ひい!!」

チンピラ2人は逃げ出した。

さて行くか。

俺は、チンピラBをおいていき、歩き出した。

## 裏道には注意（後書き）

戦闘シーンって難しい。

まあ、一応主人公の強さが分かりましたか？

実は主人公はもっと強いんですよ！

感想など、待っています！

では、また会う日まで！

フードの人は…

チンピラを撃破し、やっとついた（と言っても8分しかかかっていないけど）スタジオ、そして今スタジオの前に立っている。

そして開ける

ガチャ

陸「すいま「きたあああ！」

あのフードの娘が走ってきた

バン 俺が扉を締める音

バン！ フードが扉にぶつかる音

「はう！」

アブねえ…なんて人だよ…

ガチャ

また扉を開けると

「ううっ、ぐずっ」

フードの娘が泣いていた

陸「あー、大丈夫か？」

「ふえ？も、ぐずつ、もしかじて…は、入って、ヒック、くれるんですか？」

なんかスルーされた気が…

陸「そうだ」

すると彼女はうつむき、

「や……………」

陸「あ？」

次の瞬間、

「やったあああ！」

叫んだ

〜じゅぽんぽん〜

いま、先ほどの方と向かい合わせに座っている。

「やっときた…やっと…やっと…」

ずっとこの調子である

陸「で、そろそろいいか？」

「あ……はい！」

まずは自己紹介からだな。

陸「俺は、双坂陸斗だ」

「わ、私は、中宮 なかみや 一樹です！」

これが彼女、一樹との出会いだっただけ…

樹「あ、あと私一応リーダーで、まずテストOKですか？」

まてまて…テストだと…ギター持って来てないぞ！

陸「楽器は？」

樹「あ……ギターとドラムならたしかありましたが…ベースとキー

ボードはないです…」

急にしゅんとなる

ん？なんか反省してる？

陸「じゃあ、ギター借りるぞ」

席を立ち、ギターを取りに行きストラップを肩にかける。  
そして振り返ると…

パアア

彼女は先ほどしゅんとしていたが復活した

樹「良かった…」

なんか聞こえた気がしたが…まあいいか

俺は、コードをアンプとギターにつなげ、ピックを持ち、曲を弾き  
始めた。

くまたまたしばらくして

ジャーン…

陸「ふう、こんなもんだが、どうだ？入れるか？」

すると一樹は立ち上がり、

樹「すごいです！入れます！いや、むしろ入ってください！」

そして、こちらに寄ってくるが…

ビシッ

樹「へ？」

コードに引っかかり、転ぶ

しかし、床には着かなかった

なぜなら

陸「おっと」

俺が受け止めたから



## フードの人は…（後書き）

2連続投稿！

作者「ね…眠い！」

陸斗「起きろ作者！浴びせ蹴り！」

作者「ぐげっ！な、なにをする！？」

陸斗「いや、効率よく、確実に起こすため」

作者「な、なんちゅう起こしかただ！！」

陸斗「まあ、気にするな、それより次回予告」

作者「あ、そうだった。次回、プロフィール入れます！」

ズルッ

陸斗「プロフィールかよ！もっと書けよ！」

作者「まあ…善処します」

陸斗「しっかり答えろ！延髄蹴り！」

作者「ヒギヤアアア！」

陸斗「ふう、疲れた、ではまた会う日まで！」

俺がもらった手形(前書き)

久しぶりです

なかなか忙しく、投稿どころか編集すら難しかったです(^| ^:)

ではどうぞ!

……え?

プロフィールじゃなかったのかって?

き、気のせいですよ(^。 ^:)

俺がもらった手形

いま俺は……

樹「すいません！」

「こりゃ、また強くやられたな」

一樹と、俺が一樹に『ビンタ』された直後に入ってきた人（俺より前に入っていたらしい）が言った

ビンタされた理由は、分からない。

俺が、倒れる一樹をキャッチしたら、まずフードが脱げた

そして顔を見た、彼女はみるみるうちに顔を赤くして、『パチン』

とこんな感じだった

嫌われてるのかなあ……

一樹「ほんとにごめんなさい!!」

高速で頭を上げ下げする一樹

陸「いいよ、全然痛くなかったし」

心はかなり痛いけど

「そついや、あんたは誰だ？」

今ごろかよ…さっきまで大丈夫かとか言っ  
て氷嚢を持ってきてたのに

陸「俺は陸斗、双坂陸斗だ」

「そつか、俺は山江 やまえかす和、キーボードだ、陸斗はなにができる？」

陸斗「俺？俺はギターだけど…」

side 一樹

双坂陸斗…

初めて会ったとき、とてつもなく心臓が高鳴った

そして、入ってきて欲しいと願ったら来てくれてまた心臓が高鳴った

ちよつとひどいこともしたけど…ドアにぶつかったの今日二回めだ  
つたんだよ…！

まあそれはおいといて…

私、病気かなあ…

さっきも助けくれたのにピンタしちゃって…

何だろっこの気持ち…

和「…陸斗はなにができる？」

ん？楽器について話してるのかな？

私ハーモニカぐらいしかできないけど…

陸「俺？俺はギターだけど…」

そっぴや陸斗のギター凄く巧かったなあー

和「だけど…？」

陸「他にもできるやつあるぞ」

はえ？

樹「陸斗は、ほかの楽器もできるのかあ…」

すごいな〜ベースとかドラムとかかな？

和「なにができる？」

陸「まずベースだろ、ドラム…」

一樹「うんうん」

陸「ピアノ、キーボード、ショルダーキーボード」

ふえ!?

一樹「す、すごい…」

和「そ、そんなに?」

陸斗はまだ考えている

陸「うん…ほかには、ヴァイオリン、トロンボーン、フルート、  
クラリネット、ハープとあとトランペ」

樹と和「も、もういいよ!」「」

ど、どんだけできるんですか!!

俺がもらった手形（後書き）

エビ「疲れた…」

和「くらえ！！浴びせ蹴り！」

エビ「ふっ、同じ技が通用するとても…って陸斗は？」

陸斗「すきあり！かち上げエルボー！」

エビ「ひでぶ！」

陸斗「いまだ！やれ！！」

和「よっしゃあ！まかせろ！二段蹴り！」

エビ「ぶべら！」

陸斗「とどめだ！かかと落とし！」

エビ「ぬぎゃあああ！」

和「決まった…」

陸斗「空中協力コンボ強いな」

エビ「なにしてんねん！！一瞬三途の川が見えたぞ！！」

陸斗「気にするな、ハイキック」

エビ「げぶー！」

和「これは、更新が遅い罰だ、ミドルキック」

エビ「ぐぶー！」

一樹「えっと、このままだと後書きが終わらないので私が進めます」

陸斗「食らえ！！カポエラ！！」

エビ「ぐは、ぐは！ぐはあー！！」

一樹「……次回こそプロフィールか私のときの『出会いは始まり』  
になると思います。ではまた」

エビ「ぎゃああああー！！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1826n/>

---

Dream music

2010年11月16日18時30分発行